

学 長 殿

平成 30 年 4 月 5 日

平成29年度 教育改善事業に係る取組の実績報告書

標記の件について、採択された取組の実績を以下のとおり報告します。

学科、委員会等： 進路指導委員会

申請（代表）者： 今井 伸



1. 取組の名称

地方公務員合格者増への取り組み

2. 取組の実施単位（「個人」、「組織」のいずれかを丸で囲み、「組織」単位の場合は組織の名称を記入してください。）

個人	<u>組織</u>	進路指導委員会
----	-----------	---------

3. 取組実績の概要（実施スケジュールを含む）

1. 3年生に対する指導（平成29年10月～現在）  
公開添削による論文指導。一般教養対策として、資料解釈、現代文、時事問題を中心に取り組む。自治体やOBを個別に訪問する際の同行。等
2. 4年生に対する支援（平成29年6月～9月末）  
面接対策。購入したダンスミラーを活用し、面接時の雰囲気、笑顔、表情の確認を行う。公務員として働く際の教養を身に着ける。
3. 合宿  
平成29年9月および平成30年3月に合宿を実施した。

4. 取組の成果

- ・公務員合格者の増加・・・公務員試験合格者は41人（のべ人数）と過去最高を記録した。内訳は（平成30年3月31日現在）、地方上級職として東京特別区15人、神奈川県6人、横浜市4人、川崎市3人、相模原市1人。保育・幼稚園職として7人。神奈川県教員1人。法務省専門職員4人。
- ・大型鏡面鏡の使用・・・面接時の姿勢を自ら確認修正できるようになり、指導効果が短時間で現れるようになった。
- ・学習環境の提供・・・公務員対策合宿時に会議室の借用により、学習環境が飛躍的に良いものとなった（従来は客室を使用）。効率的に学習を進めることができた。
- ・パソコンの使用・・・一般教養試験の判断推理、資料解釈等の問題解説が効率的にできるようになった。論文指導も、直接赤字で書き込んだものを公開できるようになり、他の論文を参考にするなどレベルの向上に繋がった。
- ・卒業生の指導・・・公務に従事している卒業生に交通費相当の謝礼ができるようになり、面接指導等への参加者が増加した。
- ・試験問題集の活用・・・過去問や模擬問題を複数活用できるようになり、受験生たちの学習が効果的・効率的に進むようになった。

5. 課題・問題点

- ・受験生の学力不足・・・大学入試を経験しておらず、受験勉強自体への取組方法を知らない学生が多い。
- ・全学的な取組にならない・・・各教員が自分のアドバイザー学生が公務員試験を受験していることを把握していない場合が多い。面接試験対策を行わなければ、本学のレベルでは難しい。全学的な協力体制がなければ、担当教員のモチベーションも低下する一方である。
- ・基礎的な計算力が不足・・・割り算、掛け算のスピードが極端に遅い学生が多い。
- ・マンパワー不足・・・公務員対策に精通した教員が少なく、負担が大きい。
- ・社会性の欠如・・・公務員として送り出すには、挨拶、礼儀等に問題がある合格者が複数名いる。

## 6. 自己評価

本学のようないわゆる学力底辺大学が、ドラスティックに對外的評価を高めるには、客観的な評価を得られる本学ならではの数値が必要である。この意味では、公務員合格者数が延べ数で41人となったことは、今後の入学広報にも大きな影響を与えることができたと評価する。

## 7. 今後の予定（取組成果の活用方法や取組実績の分析・検証、課題・問題点の対策等）

・この取り組みを継続されるために、取組に要した費用は進路指導委員会の恒常的な予算に計上する。基礎的な学力の不足は、一般受験による入学者を増やす等の抜本的な改革が必要となる。今回の成果を、入学広報に有効に活用願いたい。

学 長 殿

平成 30年 4月 12日

## 平成29年度 教育改善事業に係る取組の実績報告書

標記の件について、採択された取組の実績を以下のとおり報告します。

学科、委員会等： 研究倫理委員会・コンプライア  
ンス委員会

申請（代表）者： 村井 祐一

村  
井

## 1. 取組の名称

全教職員に対するeラーニングによる研究倫理プログラム受講事業

## 2. 取組の実施単位（「個人」、「組織」のいずれかを丸で囲み、「組織」単位の場合は組織の名称を記入してください。）

個人  組織 研究倫理委員会・コンプライアンス委員会

## 3. 取組実績の概要（実施スケジュールを含む）

APRIN eラーニングプログラム（CITI Japan）を本学で受講できる契約行い、本学の教職員に必要と考えられる受講カリキュラムを作成し、全教職員のアカウントを発行した。本学オリジナルのe-learning受講マニュアルの作成を行った。

受講期間平成30年1月22日～平成30年3月31日

【CITI e-learning実施結果】  
全81名中52名が受講（受講率64.2%）

【内訳】  
社会福祉専攻 10名  
介護福祉専攻 5名（全員受講）  
心理福祉学科 7名  
子ども未来学科 12名  
事務職 18名

## 4. 取組の成果

e-learningの具体的な学習効果については今後の評価となるが、研究倫理に対する意識レベルの現状把握につながった。

なお、受講内容を印刷して後日再学習に役立てようとする受講者も少なからず存在し、これらの人々の研究支援を進めていく必要がある。また、e-learningを受講してみたところ、知っているようで、知らなかったことが多数あったため、とても興味深かったという感想も得ている。

以上のことも踏まえ、64.2%の教職員が研究倫理に対する理解を深めたことは一定の成果をあげたと考える。

## 5. 課題・問題点

研究機関としては100%の受講率を目指すのが当然であるため、平成30年度も引き続き研究倫理に関する啓発を進めていく必要がある。

新採用の教職員や未受講者については、引き続き啓発を行っていく必要がある。

e-learningが受講できるタイミングがもう少し早い時期からであれば、リマインドをする機会も増やせたと考える。また、受講をしない教職員の理由についても把握する必要があった。

## 6. 自己評価

年度末の忙しい中、64.2%もの教職員が本研修を受講し、研究倫理に対する理解を深めて頂けたのは大きな成果であったと評価する。

## 7. 今後の予定（取組成果の活用方法や取組実績の分析・検証、課題・問題点の対策等）

平成30年度も本取り組みを継続させ、100%の受講率に向けて啓発活動を継続する。  
また、本プログラムを受講した学部教員には、研究倫理教育の権限を一部委譲して学部生の研究指導を行いやすくする方向で検討している。  
さらに受講ライセンスに余裕（基本料金で100人分）がある場合は、一部の非常勤講師などへの本プログラムの開放も検討したい。

学 長 殿

平成 30年 4月 9日

平成29年度 教育改善事業に係る取組の実績報告書

標記の件について、採択された取組の実績を以下のとおり報告します。

学科、委員会等：心理福祉学科

申請（代表）者：渡邊 由己



1. 取組の名称

学内での授業外学習活動促進を目的とした学習支援活動の工夫ー心理学の自律的学習力形成を到達目標としてー

2. 取組の実施単位（「個人」、「組織」のいずれかを丸で囲み、「組織」単位の場合は組織の名称を記入してください。）

(個人)	組織	学内での授業外学習活動促進を目的とした学習支援活動の工夫ー心理学の自律的学習力形成を到達目標としてー
------	----	--

3. 取組実績の概要（実施スケジュールを含む）

取組の目的は、心理学に関する学生の授業外学習活動を学内で促進させるための効果的な学習支援の工夫を検討し、最終的には学生がピア・ラーニングにより教え合い学び合う自律的学習力を身につけることを到達目標として、まずは学内における授業外学習の機会を増やし心理学への興味・関心を向上させること、これにより授業外学習をおこなうムード（学内風土）を高めることであった。

<実施スケジュール>

- ・平成29年 9月中旬：1年生に心理学検定勉強会を案内、取組実施者である渡邊が対応可能な時間帯として、水曜5限を勉強会とし、加えて3限、4限を研究室でのフリーレクチャーアワーとして月2回程度設定した。
  - ・平成29年10月～平成30年3月：心理学検定勉強会およびフリーレクチャーアワーの定期的実施
- 心理学検定勉強会は9回実施し、参加学生は回により増減があったが3名～7名程度の参加であった。フリーレクチャーアワーは7回の設定で計5名の学生が利用した。

4. 取組の成果

心理学検定は、渡邊が心理学検定勉強会を始めるまで本学からの受験者がなく、周知もされていなかった。勉強会の開始は前年度（平成28年度）からであり、今回の取組開始前のことではあるが、勉強会参加者で今年度心理学検定を受検し2年生ながら1級（前年度結果によると、全受検生が4,000人程度で、そのうち1級取得者は800人程度。おそらく2年生で取得したのはこのうち半分もないのではないかと推測される）を取得した学生がおり、その話から今回の勉強会へ参加を希望した学生もいた。少人数で教員と学生双方向のコミュニケーションが取りやすく、正規授業のような様々な「縛り」がなく自由に出来ることも、勉強会への参加を継続した学生には魅力のようであった。当初の予定では最後の回に数量化可能なアンケートを実施することとしていたが、参加者の総数が少なかったため自由記述形式でおこなった。その回答としては「分からないところですぐに質問できるのがいい」、「授業のように説明が堅苦しくなく、余談のようなものも教えてくれたのが良かった」、「心理学は当たり前のことを難しい言葉で表現する学問、のようなことを授業で言われたが、勉強会では難しい言葉の意味も教えてくれるのが分かりやすい」など概ね好評であった。

5. 課題・問題点

- ・心理学検定勉強会、フリーレクチャーアワー共に、各学年の学生が共通して利用しやすい時間帯設定が難しい。これには教員側の時間的都合も含まれる。このために今回の水曜日午後設定では2年生、3年生の利用が困難となり、結果的に利用者が少なくなってしまった。複数の教員でおこなうなどの工夫が必要である。
- ・今回の取組では、実施者である渡邊が新学科・大学院新専攻の申請作業で最も多忙となる時期と重なってしまった。このため教育用機器の発注等が遅くなり、当初計画していた「なでしこホール」等オープンスペースでのレクチャー実施の準備が出来ず、学内での学びの雰囲気づくりにつなげるほどのことが出来なかった。今後の実施課題としたい。

## 6. 自己評価

- ・心理学検定勉強会については、参加者への学習動機づけ向上には寄与出来たものと考えている。
- ・フリーレクチャーアワーは、利用者数があまり伸びず、効果的な時間帯設定と周知の努力が必要である。
- ・学内の学びの雰囲気づくりとしてのオープンスペースでのレクチャーについては、新学科・大学院新専攻申請作業により全く計画通りではなかった。今後必ず実施していきたい。

## 7. 今後の予定（取組成果の活用方法や取組実績の分析・検証、課題・問題点の対策等）

- ・心理学検定については、8月下旬に年1回おこなわれるのみであるため、本学3年生は実習のため受検が困難である。力のある学生は2年生で受検出来るよう対応し、そうでない学生は4年生で確実に成果を出せるよう指導していきたい。
  - ・今後、新学部が認可されたのちに新学部と現行の学部でどのように心理学を学ぶ雰囲気づくりをおこなっていくか、心理系教員との話し合いも含め検討していきたい。
- ・購入した教育機器の活用を本格化させ、効果的な機器の活用なども併せて検討していきたい。